



# 発電所で働く一人ひとりが 相手の立場に立って最善を尽くす

柏崎刈羽原子力発電所 所長 稲垣 武之

## 福島第一原子力発電所の事故を 経験しているからこそ絶対に妥協しない

福島第一原子力発電所の事故では、復旧班長として事故の収束にあたりましたが、そこには多くの反省と教訓がありました。

設備面では、「津波に対する防護が脆弱だった」「すべての電源を失った場合の電源復旧や、原子炉などへの注水・冷却のための手段が十分に準備されていなかった」などが挙げられます。また人面でも、「緊急時の体制と手順が不十分だった」ことが大きな教訓として残りました。とくに、私の指示で「部下を非常に危険な状況に陥らせてしまった」という点は、今でも涙が出てくるほど痛恨の極みです。「**日ごろの研鑽なくして事故対応は不可能**」「**福島第一原子力発電所の事故を直接経験しているからこそ絶対に妥協しない**」との想いで、設備対策だけでなく、緊急時を想定した訓練などハード・ソフト両面での対策を講じています。

## みんなが誇りを持って、 笑顔で活き活きと働く発電所へ

より良い発電所にしていくために、協力企業の皆さんも含めた発電所で働くすべての人々の“目指す姿”や“決意・約束”を「柏崎刈羽原子力発電所の志」としてまとめました。「**いい発電所**」であり続けるためには、**働く人たちがコミュニケーションを取りあい、互いに信頼しあうことが不可欠です。**私も「あいさつ運動」「褒める仕組み」「対話会」「日々のブログ発信」などを行っていますが、所員や協力企業の皆さんもコミュニケーションにこだわった改善活動を展開してくれています。そして、「発電所をマイプラントとしてとらえ、良くしていこう」という意識を持ち始めてくれています。

発電所で働くすべての人々が「自信を持って、この発電所の運営は大丈夫だ」と胸を張って言えるよう、全員参加型の改善活動を続けていきます。

## 地域を愛し、 地域に愛される発電所へ

地域の方々からいただいた声を「いかに発電所運営に生かし、改善していけるか」も重要です。

そこで、従来型の紙の広報誌に加えて動画配信も始めるなど、これからも地域の皆さまの「知りたいこと」にこだわって情報を発信していきます。また、所員全員が地域の皆さまと一緒に、地域のイベントや地域貢献活動に参加させていただいていますが、地域の皆さまの想いを直に感じ、業務に生かすことができる貴重な場となっています。こうした接点をより一層増やしていきたいと思っています。

**発電所で働く一人ひとりが、相手の立場に立って最善を尽くすことを意識するとともに、「地域を愛し、地域に愛される発電所」となるよう、**この発電所を運営していきます。

## 「自分が発電所の安全を支える」という自覚と誇りを胸に

柏崎刈羽原子力発電所 第二保全部

部長 宮田 裕則

1995年入社。2013年より柏崎刈羽原子力発電所の安全対策工事を担当。現在は6/7号機の安全対策工事に従事する

**福** 島第一原子力発電所事故の復旧に直接携わった経験があるからこそ、「二度と起こしてはならない」「自分が発電所の安全を支える」といった自覚と誇りを強く胸にいただいています。それが地域の方々への安心にもつながるわけですから、恥ずかしくない仕事を誠実かつ実直に遂行し、信頼の向上につなげていきたいと考えています。

業務に対しては自分が納得し、**一緒に働く人々と「いい仕事できた」「いい出来映えだ」と共感できる仕事を心**

**かけています。**そのためは、協力企業の皆さんともコミュニケーションを重ね「目的・目標・優先順位」を共有した上で作業を進めています。また、「トラブルやミスは起こりうる」という前提に立った上で、①大きなトラブルへ発展させない ②同じミスを繰り返さない ③何かあったら必ず立ち止まることを徹底しています。自ら課題や気づきを発見し、改善する取り組みを繰り返すことで「安全最優先」な発電所を実現します。



## 発電所で働くすべての人が協力し、発電所のセキュリティを高める

柏崎刈羽原子力発電所 セキュリティ管理部  
核セキュリティ施設運用グループ

高橋 康

2011年入社。6/7号機の運転員を経て、現在はセキュリティ管理を担い、警備業務委託の監理に従事する

**警** 備を担当する所員や協力企業の警備員の方々から**警備での気づきや困りごとなどを集約、いち早く改善し、現場に届けることに力を注いでいます。**そのためは、言い出しやすい環境づくりとともに、気づきや困りごとをきちんと受け止め、できる、できないも含めてしっかりと返すことが重要だと思っています。また、警備する側だけでなく、警備される側の社員や協力企業の皆さんが「自らを証明する責任」を持ち続けていただくことも欠かせません。働くすべての人々が協力しあうことで、この発電所のセキュリティを高めていきたいです。

日本原子力防護システム株式会社  
新潟事務所 柏崎刈羽防護隊

品田 新

2013年入社。原子力発電所セキュリティ専門会社の警備員兼責任者として、柏崎刈羽原子力発電所の出入管理、巡視などを行う

**た** とえどのような状況、相手であっても、警備員として正しいことを追求し、「正しい業務を正しい手順で行う」ことにこだわっていきたくと考えています。そのためは、周囲の協力や対話が不可欠です。レポートなどを活用して常に改善を図り、警備員にも入域者にもストレスのない仕組みづくりに努めています。また、結果はもちろん、過程にもこだわり、**企業の垣根を越えて、お互いを正し高めあえるような、協調性にも優れた発電所にしていきたい**と思っています。



高橋(中央)、品田(左)

## 「経験不足への不安の声」を払拭したい

柏崎刈羽原子力発電所 第二運転管理部

当直長 菅波 盛己

1988年入社。(国研)日本原子力研究開発機構への出向などを経て、現在は当直長として6/7号機の運転業務に従事する

**原** 子炉や発電設備の運転を担う私たちは、シミュレーターなどを用いた実際の災害を超えるような過酷事故訓練を日々重ねていますが、**福島第一原子力発電所の事故を起こした私たちであるからこそ、世界トップレベルの技術、対応力が求められると考えています。**そしてその技術、対応力は継続して、さらなる高みを目指さなければなりません。さらに、ベテラン運転員の現場指導による技術継承や運転時のサポート体制構築などにより、10年以上運転していないことへの不安の声を払拭したいと思います。

柏崎刈羽原子力発電所 第二運転管理部

運転員 小出 南

2022年入社。2023年4月より、6/7号機の運転員(補機操作員)として、設備の巡視・点検などの現場対応を担う

**現** 場の巡視・点検などを行う操作員として、ヒューマンエラーを防止するための手順を徹底するよう心がけています。また、蒸気を使って運転するなど共通点の多い火力発電所に行き、匂いや手触り、音などリアルな感覚や緊張感などを学んでいます。

福島第一原子力発電所の事故当時、私は中学生でしたが、いま社員として働いていることに「大きな意義がある」と思っています。**自分自身の成長を原子力発電所の信頼向上につなげていきたいです。**



菅波(右)、小出(左)

## 良好なコミュニケーションの先に良い仕事がある

新潟環境サービス株式会社

柏崎事業所 所長 田辺 親

1981年入社。清掃業務やランドリー業務、土木工事や除雪作業など40年以上にわたり幅広い業務で原子力発電所を支える

**地** 元・刈羽村の企業として、原子力発電所内の業務に携わっています。大切にしているのは「信頼関係を築くコミュニケーション」です。東京電力が起こすトラブルには「コミュニケーション不足」によるものもありますが、「自分の会社にもあるのではないか」と考えました。そこで、毎朝の「あいさつ運動」を弊社でも取り入れ、褒める仕組みの構築と感謝の輪を広げたいという思いから「サンクスカード」の運用を進めています。

私は「**良好なコミュニケーションの先に良い仕事がある**」と考えています。柏崎刈羽原子力発電所全体でコミュニケーション改善が進みつつある中、所内で挨拶を交わしたり、相談しやすくなったりと協力会社を含む互いの関係性が「より近くなった」と感じています。一つひとつのコミュニケーションが「東日本、そして日本全体の電力の安定供給に役立っている」と自負できるよう、褒める文化・感謝の文化をさらに根づかせていきたいと思っています。



田辺(中央)

東京電力ホールディングス株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

〒945-8601 新潟県柏崎市青山町16番地46  
電話：0120-120-448 (平日9時～17時)

柏崎刈羽原子力発電所の日常や  
働く所員にスポットを当てた  
動画はこちらからご覧ください。



(2024年1月制作)